

# 第4学年総合的な学習の時間学習活動案

## 1. 単元名 「やさしさいっぱい□□の町」

### 2. 単元づくりの考え方

#### ○ こんな子どもだから

本学年の子どもたちは、他人の気持ちを考えたり、人に親切にしたりすることの大切さについてはよく分かっている。困っている友達を助けている様子もよく見られる。しかし、分かっているでも行動に移せない子もおり、ましてや知らない人に対してとなると、その傾向は強くなっていく。

子どもたちはこれまで、障がいをもつ人とのかかわりをほとんど経験していないが、国語「手と心で読む」の学習の中で点字について学び、体が不自由な人の生活や気持ちについて関心をもち始めている。

#### ○ こんな単元で

本単元では、障がいをもつ人々と出会ったり、車いすやアイマスクを体験したりする中で、自分たちが住む町□□が、不便で住みにくい面もあることを実感する。そこで、自分にできることを考えたり、行動に移したりしながら、実践力を養うとともに、相手の立場に立って考えることの大切さを学んでいくものである。

##### ○ 人とのかかわりから

思いやりの心は、自分一人では育てることができない。人とのかかわりの中で、相手を意識し、相手の気持ちに共感していくことで育つ心である。そこで、車いす体験やアイマスク体験、障がいをもつ人々との交流などを通して、他人を思いやることの大切さを、知識としてだけではなく、心で感じさせたい。このことは、相手の立場に立って、自分にできることを考えたり、実践したりしていく力を育てていく上で意義がある。

##### ○ 小中連携から

近年、社会環境は多様な価値観や情報の氾濫の中、めまぐるしく変化している。そんな中、小学校高学年や中学校などにおいて、友達とのトラブルなどから、不登校になってしまう子どもたちやいじめに悩む子どもたちが増えてきている。障がいをもつ人々の思いに触れたり、その人たちの目線で自分たちの町を見直したりすることは、豊かな心、特に、他人を思いやる心や異質なものの寛容の心を育てる上で、非常に意義深いと考える。このことは中学校生活において、望ましい人間関係を築いていくためにも重要であると考えられる。

#### ○ こんな指導・支援で

本単元ではまず、□□の町が住みやすいかどうか話し合い、実際に町に出て調査を行う。その後、車いすやアイマスクなどの擬似体験をすることで、目が見えないことの不便さや辛さ、車いすを動かすことの大変さなどに気付かせる。また、その原因がちょっとした段差などであることにも気付かせる。さらにゲストティーチャー（GT）の話を直接聞くことで、私たちが意外と気付かない、町の中での困ることに気付かせ、次の町調べの視点とさせる。また、不便ではあるが不幸ではないという彼らの思いにも触れさせる。

その後、2度目の町調べを、障がいをもつ人々の目線で行う。そして、その人たちにとって「やさしい町」なのか「やさしくない町」なのかを話し合う。そして、やさしくないと思う部分に対して、自分たちにできることを話し合い、取り組んでいく。

最後に、それぞれの課題に応じてパンフレット・ポスター・手紙などの手段で発信したり、手話や点字などへの取り組みなどを行ったりする。

#### ○ こんな子どもをめざして

- 自分たちの町が、すべての人に対してやさしい町かどうかを、意欲的に調べることができる。
- 障がいをもつ人々に対して、お互いのよさや違いを認め合うことができる。
- 障がいをもつ人々の立場に立ってものごとを考えたり、行動したりすることができる。
- 友達やGTの話の大事なところに気をつけて聞いたり、話す内容を整理して順序よく話すことができる。
- □□をもっとやさしい町にするために自分にできることを考え、進んで取り組むことができる。

## 4 年本時学習活動案 (24/40)

### 1. 本時のめざす子どもの姿

- わが町が体の不自由な人々にとってやさしい町なのかどうか、町調べをして分かったことを発表することができる。
- 自分たちが調べたことや友だちの発表から、町の問題点を見つけたり自分にできることは何かを考えたりすることができる。

### 2. 本時の支援・指導にあたって

- 前時までには、子どもたちは、車いす体験・アイマスク体験等を通して、不自由さや苦労を実感し、それを補助する側の難しさも経験した。また、体の不自由な人や目の不自由な人をGTに迎え、体験談を聞くことで、障がいをもつ人が町で生活する上で不便なことがあるという認識や思いを深めていった。そこで、再度、自分たちが「車いすの人」「目の不自由な人」のそれぞれの視点に立って町の中に出ていき、あらためてわが町が体の不自由な人々にとって、やさしい町なのかどうかを調べる活動を行った。
- 本時は、2回の町調べで分かったことをみんなに発表し、それぞれが自分の課題の見通しをもつ時間である。

そこで、本時の支援にあたっては、わが町の課題を明確にするために、町調べで分かったことを発表し、クラス全員に知らせる場を設定する。その際、調査結果を分かりやすくするために、グループごとに写真や発表ボードを使って、「やさしい点」「やさしくない点」を発表させ、地図に表していく。

次に、発表で出てきた「やさしくない点」について注目し、改善した方がよいと思う点について、各自が主体的に考えていけるようにするために、自分の考えをプリントに書く時間を確保する。その後、班ごとに自分の考えを発表する場を設け、理由などを伝え合うことで、改善した方がよいと思う点についての考えを深めさせたい。

最後に、次時に向けて、改善のためには誰がどうすればよいのか、自分たちには何ができるのかと問いかけ、もっとやさしい町にしていくために自分にできることを各自に考えさせていきたい。

### 3. 準備

(教師) 前時までには使用した拡大地図  
改善の意見を書く学習プリント  
町調べで撮った写真  
車いす アイマスク

(子ども) グループの発表内容をまとめた発表ボード

#### 4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導上の工夫と留意点（※評価の規準）
めあて	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           体の不自由な人たちの立場から、□□の町を見直そう。         </div>	
<p>1. 前時の活動を想起し、わが町の課題を明確にするために、グループ別発表の続きを行う。 （2／8グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目の不自由な人の視点に立って調べたグループ</li> <li>○ 車いすの人の視点に立って調べたグループ</li> </ul> <p>2. わが町の「やさしい点・やさしくない点」について話し合う。</p> <p>(1) 各自が主体的に考えていくために、改善の必要があると思われるものについて、プリントに理由もつけて書く。</p> <p>(2) 自分の意見を伝え、考えを深めるために、プリントに書いたことをグループ内で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の段差を改善することが大事だと思います。そのわけは段差が大きいと、車いすが傾いたり転んだりして危険だからです。</li> <li>・自転車の止め方を改善することが大事だと思います。そのわけは自転車が点字ブロックの上に置かれていて、目の不自由な人が知らずに通ると引っかかって危ないからです。</li> <li>・地下に降りるエレベーターがあるといいです。</li> <li>・歩道が狭いところが危険だと思います。</li> <li>・音の出る信号がもっとあるといいと思います。</li> </ul> <p>(3) 全体で意見を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで話し合った内容を、他のグループとも交流する。</li> </ul> <p>3. 本時のまとめをし、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2度目の町調べで気付いた点（体の不自由な人にやさしい点・やさしくない点）について、理由もつけて発表させる。</li> <li>○ 発表ボードなどで、具体的に説明をさせる。</li> <li>○ 町全体の様子がわかるように、調べたことを拡大した地図にまとめる。</li> <li>※ 体の不自由な人の視点に立って考えることができる。</li> <li>※ 相手に伝わりやすいように調べた内容を順序だててわかりやすく発表することができる。</li> <li>○ 発表の内容について整理し、改善する必要があると思うものについて、プリントに理由を書かせた後、意見を交流させる。</li> <li>○ めあてを再度確認し、体の不自由な人の視点で考えるようにさせる。</li> <li>○ 発表が苦手な子も意見が言えるように、まず、グループ内で交流する。その後、全体で意見を交わすようにする。</li> <li>※ 体の不自由な人の視点に立って考え、自分の意見をプリントに書いたり、発表したりすることができる。</li> <li>○ 発表の際、必要であれば、車いすやアイマスクを使って説明させる。</li> <li>○ 次時は、「改善に向けて自分たちに出来ること」について考えるということを知らせる。</li> </ul>